

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
地域や社会に夢を持ち力強く生き続ける生徒の育成	○学力の向上(数値目標:経過数値の維持・向上)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
学習指導	授業内容の改善	めあてとまとめあのある授業展開ができていますか <結果> 昨年に続き主題研究に取り組んでいるが、昨年の結果よりポイントは下降した。まとめからめあてを作る授業設計を目指した教材研究に取り組んで職員全体に普通に実践できているために厳しく評価したと考える。	3.1	さらなるめあてとまとめが繋がる授業づくりに取り組むことで、生徒も何を、どのように学んだのかまた、学力の向上につながると思います。	日頃から生徒に何を身に付けさせたいのか、「まとめ」「めあて」を明確に示し、主体的に学習に向かうことができるように授業づくり・授業改善に取り組んでいく。
		基礎・基本の定着を図る取組を行ったか <結果> 本校の特色である少人数(学級当たり20人以下の生徒数)を生かした授業形態の工夫がもう少し必要だと考えられる。個別の基礎・基本の定着ができていない。	3.2	習熟度別の学習形態に取り組むなど、個に応じた取組を期待します。繰り返して基本的な問題を積み重ね、正答率を上げてもらえると生徒の学習意欲の向上につながると思います。	実力テストや定期テストの分析結果をもとに個に応じた補充学習に取り組む(チャレンジタイム・フォローアップタイム等)。また、習熟度別や入り込み授業の中で、学力層に応じたより個別最適な支援を行っていく。
学習指導	学習指導	生徒の考えを書く活動場面を設けたか <結果> 講義形式の授業から、いかに生徒自らが深い学びにへと結びつける問題意識を持ち、自ら考え、考えを整理する活動に取り組んでいる最中であり、生徒の学ぶ意欲の向上など成果が少しずつ出ている。	2.9	授業改善や自分の考えを整理するためにも書く活動のさらなる徹底や位置づけは重要だと考えます。	自分の考えを整理するための十分な時間を確保設定していく。また、書く活動の充実に向けての工夫を行う。さらに、「書く活動ポイント9」に関する校内研修を再度計画、実行していく。
		自分や他人の意見を交流する場面を設けたか <結果> 昨年より大きくポイントが上昇している。毎日の授業の中で互いの考えを交流し、考えを整理する活動を着実に仕組んでおり、今後も引き続き取り組んでいく。今後効果が出てくると考える。	3.0	グループを多く取り入れて他との考えを交流することで、自らの考えが付加修正され、深い学びにつながると思います。多様な授業形態を計画的に取り入れていきたいと思っています。	生徒が自分の考えを表現できる学び合う集団作りに取り組む。また、対話した内容を整理・交流するために、学習教材等を開発していく。
学習指導	家庭学習の習慣化	各教科で課題(特に週末)を与えることができたか。 <結果> 昨年より大きくポイントが上昇している。生徒の家庭学習状況は二極化しており、特に週末の家庭学習は十分とは言えない。今後、さらに週末課題の工夫を通してにどう取り組むか早急な対応が必要である。	3.1	生徒個人の計画で進めることも大切ですが、教師側の単元や時期を絞って重点的に取り組む週末課題の取組も大切になってくるのではないかと思います。	目的を持たせる動機・意識づけを行い、個の実態に応じて重点的に繰り返し学習する課題を出したり、次の学びに繋がる予習を意図的・計画的に取り組ませたりするような仕組みをさらに作っていく。
		家庭学習の定着に積極的な指導を行ったか。 <結果> 昨年より大きくポイントが上昇しているが、全般的に全学年家庭学習の目標に全く届いておらず、日々の学びの定着を図る上でも徹底した取組更なる工夫を早急に行う必要がある。	3.2	いろいろな取組の中で、意図的に学級や学年の中で自学ノートの評価し合い、生徒の意欲向上に繋げていく事が大切だと思います。	コンクール形式ではなくても、意図的に学級や学年の中で自学ノートの評価し合い、生徒の意欲向上に繋げていく。また、自学ノートの内容等については小学校と連携しながら改善を図っていく。
	総合所見	本校の重点課題である学力向上をすすめる上で、職員の加配による少人数指導が可能であるという本校の特色ある状況から、成果と課題を分析し、生徒の実態把握に務めそれに応じた取組・改善を行っていく必要がある。授業改善、補充学習、家庭学習の3つの柱を教職員に明確に認識させ、さらなる課題意識を高め、小学校や先進校の事例を参考にし職員の加配による少人数指導の利点を最大限に生かしながら実践に繋げていくことが必要である。			

生徒指導	落ち着いた学校づくり	チャイム席など生徒が時間を守る指導を行ったか 〈結果〉 昨年の結果よりポイントが下降した。すべての専門委員会の活動など、生徒の自治活動を活発化し充実させ、自ら考え行動できる生徒の育成に努める必要がある。	3.4	基本的に落ち着いた学校づくりには、凡事徹底が大切だと思います。今後も生徒の自主的な自治活動を大切にしながら、生徒の自主自立を促す成長に繋げていただけたらと思います。	引き続き生徒自ら主体的に考え行動できる自主自立の精神を育むために、生徒会及び学年・学級による取組を重視する。教師は常にその意図を明確にした学級、学年、教科経営をさらに促進する。
		いじめのない学級や人間関係づくりの取組を行ったか。 〈結果〉 昨年の結果よりポイントが下降した。いじめの認知件数は4件である。生徒の言動や動きを観察し、早期発見・早期対応に努めると共に、少人数指導の良さを生かした更なる集団作りや積極的な生徒指導に取り組んでいく。	3.1	何よりもいじめに関しては、早期発見・早期対応が大切です。言うまでもなく、少人数指導を生かした取組を今後も期待します。	教員のアンテナを高くし、日常の生徒の言動を注意深く観察し、気になる言動に対しては見逃さず、報告・連絡・相談を徹底させる。その際、生徒指導委員会においても情報を共有し、早期発見・対応に努める。
生徒指導	生活習慣の改善を図る生徒指導	不登校傾向にある生徒への支援をおこなったか 〈結果〉 昨年の結果よりポイントが下降した。不登校生の報告は2名。今後も生徒指導・不登校対策委員会等で対応について検討し、生徒及び保護者に対し丁寧な対応を継続していく。	3.1	全ての生徒の小さな異変でも気づいてやれるような環境づくりをお願いします。生徒指導・不登校対策委員会等での組織的な対応外部機関との連携を期待します。	積極的な生徒指導のもとに生徒の言動を注意深く観察するとともに、定期的実施する調査アンケートや教育相談の中で生徒の心情を把握していく。また、生徒指導・不登校対策委員会においても気になる生徒の情報は共有し、対応を検討していく。
		他機関と連携して不登校解消に取り組めたか 〈結果〉 昨年より大きくポイントが上昇している。今年度はケース会議を昨年以上に実施。学校及び各関係機関が取り組める内容を確認し合い、対応へと繋げることができた。	3.1	今の社会情勢から学校だけでは解決できない課題等が増えてきているので、今後も関係機関との連携をよろしくをお願いします。	引き続き関係機関を含め、SCやSSWなど専門スタッフを活用したケース会議を位置づけるなど、生徒の実態に応じて対応していく。
	総合所見	いじめ・不登校を生み出さないためには、生徒が安心して学校生活を送れるように、教師側が積極的な生徒指導を展開する必要がある。また、生徒指導・不登校対策委員会等で組織的対応を確認すると同時に、早期発見・早期対応に向けて確実に報告・連絡・相談を徹底させていく。また、生徒の居場所づくりに繋がる教育活動の推進に向けて授業や学校行事の中で交流活動を大切にしていくことが必要だと考える。外部機関とのさらなる連携の強化も必要である。			
学校運営	チームとしての学校の実現	成果と課題を分析し、学年・学級経営に取り組んだか 〈結果〉 校務分掌等、各組織及び主務者が、主体者としての自覚を促し、より充実した活動となるようPDCAの再点検等、さらなる経営の改善に努める必要がある。	3.2	学年・学級経営に対するPDCAサイクルの認識、実践により、課題等を分析しさらにより良い取組になることを期待します。	明確な目的を持った計画、実践、評価を各主務者が協働意識を持ち責任をもって行い、担当部の中で改善策を明らかにして取り組むようにさらなるマネジメントをしていく。
		校務分掌の担当として企画運営を十分に行えたか 〈結果〉 昨年同様、校務分掌においてもPDCAを繰り返し、業務改善に努める必要がある。	3.1	担当者として意識をもって取り組んでほしい。今後は義務教育学校開校に向け、小中で連携を深めながら、組織編成に臨むことが大切だと思います。	各種委員会の主務者が参画意識を持ち進捗状況等については各種委員会で努めて確認していく。今後は小中で連携しながら、校務分掌の組織編成については協議していく。
		保護者や地域と連携した教育活動ができてるか 〈結果〉 今年度もウォークラリー大会の中で、保護者や地域の方に協力を頂きながら活動を実施した。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、学校行事やPTA活動で保護者や地域の方と十分な取組ができていない状況であった。	3.1	年度を通してコロナ禍で厳しい状況でしたが、団体と学校との良い関係を保ちつつ、学校運営をスムーズしていただきたい。	コロナ禍であってもできること、工夫できることを保護者や地域との連携を大切にしながら明確な目的を持った教育活動を計画していく。
	総合所見	チームとしての学校を確立していくために、教職員がそれぞれの立場や役割を認識し、当事者意識と協働意識の下に明確な目的・意識のもとに業務に対して計画的に取り組み、適宜、評価・改善を行いPDCAサイクルに基づく適正なマネジメントを実践していく必要がある。また、教職員集団の自主的な活動を促していきたい。			